

# 視覚障がい者支援におけるソーシャルメディア活用の可能性

奈良 里紗（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）  
山本 紗未（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）  
渡邊 和宏（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）  
村上 卓也（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）  
岩池 優希（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）

## 1. 団体概要

視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”（以下、当団体）は、2010年7月に設立されたNPO団体である。当団体は、視覚障がい当事者はもちろんのこと、その家族、視覚障がい関連の仕事に従事されている方（例えば、視覚特別支援学校の教員やORT、歩行訓練士等）が抱える視覚障がいを起因とした困難を共有し、ともに問題解決を図ることを目的として活動している。当団体は、主に視覚障がい当事者で運営され、事務局を筑波大学附属視覚特別支援学校内（旧便利グッズサロン）においている。

主な活動内容として、ブログを活用した情報発信及び蓄積事業、実践的なノウハウを学ぶセミナー視覚技藝事業、個別対応の相談事業の3つを行っている。本稿では、ブログを通じた情報発信及び蓄積事業の一環で行ったブログ記事内容の整理（カテゴリ化）、及び、アクセス解析に着目し、当団体の情報発信の特徴と閲覧者のニーズについて検討することとする。

## 2. 情報発信及び蓄積事業の概要

インターネットの普及により、晴眼者の多くが何か知りたいことがある場合、検索機能を活用している。一方、視覚障がい関連の情報は、インターネット検索によって得られる情報はごく少数であるといえる。しかし、IT技術の進歩により、視覚障がい当事者も、晴眼者と同じようにインターネットを活用して情報が得られ

るようになってきている。

そこで、当団体では、インターネットで検索キーワードを入力すれば、視覚障がい者であっても必要な情報を簡単に入手できるようなウェブサイトがあると便利なのではないかと考え、ブログによる情報発信事業を実施することにした。ブログという媒体を選んだ理由としては、視覚障がいのある初心者スタッフでも簡単に記事を作成することができ、写真や動画の挿入もホームページ等に比べて簡単にできるためである。さらに、ブログ上で情報発信を行いながら、情報をより検索しやすくするため、記事内容の整理を行った。これは、ただ情報を流すだけではなく、流した情報を整理した形で蓄積することにより、より使いやすく、閲覧者のニーズに応じたブログとなることを目指したためである。

## 3. 方法

### (1) 対象

2010年7月から2012年5月までに執筆された記事506件を分類対象とした。なお、アクセス解析の対象期間は、2012年2月から4月の3ヶ月間にアクセスされたものとした。

### (2) 手続き

まず、当団体で実施している情報提供活動の特徴を把握するため、スタッフ6名で記事をKJ法による分類を行なった。その上で、どのようなブログ記事の閲覧が多いのかを調べるため、ブログのアクセス解析を実施した。

## 4. 結果

### (1) カテゴリの生成

まず、ブログに掲載されている記事は新着順になっており、閲覧者が必要な情報を容易に閲覧できるようにするため、506件の記事のカテゴリ化を行なった。カテゴリの生成にあたっては、ブログ記事のタイトルを一覧にしたものを準備し、スタッフ6人で話し合いにより分類を行なった。また、記事タイトルだけでは内容が不明なものについては記事の内容を確認した上で分類を行なった。

分類を行うにあたり、4つの大カテゴリを設けた。カテゴリAは記事の内容をキーワードで分類したもの、カテゴリBは当団体からのお知らせや視覚障害に関連するイベントやセミナー情報を紹介するもの、カテゴリCは当団体で実施しているセミナー視覚技塾やその様子を動画として配信しているもの、カテゴリDはカテゴリA～Cの記事がそれぞれどのような人に向けた記事であるかが明確になるように当事者や親、教育関係者等、閲覧者の属性別に設けたものの4つとした。本稿では、カテゴリAの分類結果について報告する。

まず、カテゴリAには、468件の記事が分類され、6個の中カテゴリが生成された(図1)。これをみると、学校・勉強に関するカテゴリに分類された記事が151件と最も多く、次いで、生活・コミュニケーションが111件、趣味・余暇に関する記事が85件と多い一方で、就労に関する記事は27件、携帯・PCに関する記事は31件、補助具に関する記事が63件と少なかった。

### (2) アクセス解析の結果

次に、閲覧者がどのような記事に興味・関心があるのを調べるため、記事へのアクセス解析を行なった(表1)。これをみると、最もアクセスが多かった記事は、2012年3月に実施した当団体主催のセミナー視覚技塾の案内(240件)であり、次いで、同セミナー視覚技塾のUSTREAM(動画)閲覧ページが90件となっており、いずれも、セミナーに関するものであった。次に、75件のアクセスがあったものと

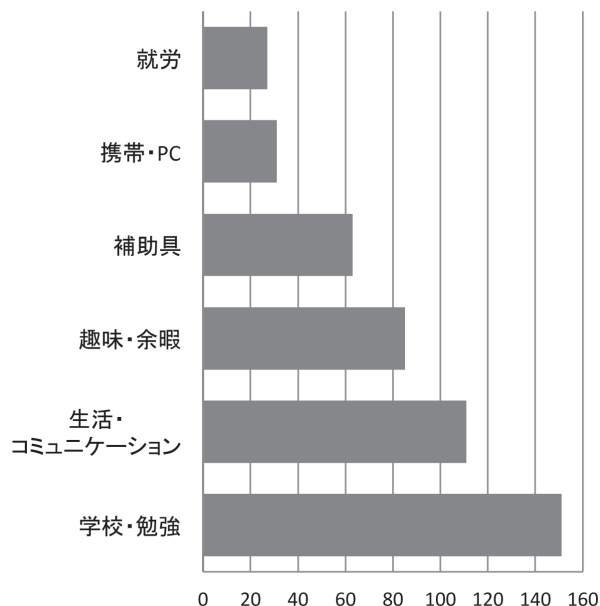


図1 記事の内容に応じたカテゴリの生成

表1 スタッフブログ閲覧順位

順位	ページビュー数	記事タイトル
1	240	視覚技塾のご案内
2	90	USTREAM 視覚技塾動画公開ページ
3	75	私の愛用スケジュール手帳
4	68	スタッフ 自己紹介
5	65	視覚技塾のご案内
6	59	スタッフ 自己紹介
7	46	視距離が近くてもノートPCを無理のない姿勢で使う工夫
8	41	「なるほど! 五感ラウンジ」のご案内
9	40	～通常学校で学ぶ見えにくいお子さんの支援を目指して
10	40	スタッフ 自己紹介

して、「私の愛用スケジュール手帳の紹介」となっており、これは、弱視当事者が市販されているスケジュール手帳を自分なりの工夫を加えてどのように見やすく、使いやすくしているかを紹介したものであった。また、この記事は、写真を使用して活用方法をわかりやすく解説しているところが特徴的であった。次に、当団体運営スタッフの自己紹介ページへのアクセスが上位10件の中に3件含まれていた。インターネットを通じた情報配信であるため、どのようなスタッフが記事を執筆しているのか知りたいと感じる人もいるだろうと考え、スタッフは写

真を掲載して紹介をしているものであった。さらに、前述のカテゴリ分類結果の中では、数が少なかった携帯・PCに関する記事である「視距離が近くてもノートPCを無理のない姿勢で使う工夫」という記事に46件のアクセスがあった。こちらも、実際の活用方法を写真を交えながら解説しているものであった。

## 5. 考察

### (1) 生成されたカテゴリに関する考察

当団体には、学齢期のお子さんや視覚障害児童生徒のいる親からの相談が多くを占めているため、これらのニーズに応えるために、学校や勉強に関する記事が最も多くなったものと考えられる。特に、当団体のスタッフが小学校や中学校、高校、大学、それぞれに在籍していたときのことを振り返り、学習上、工夫していたことや学校生活で不安であったこと等、成人になってから過去の自分を客観的に振り返っているものであり、親や教育関係者からは参考となり、当事者は自分も小さい頃はそうだったと共感する人もいた。このような声が寄せられる一方、アクセス解析をしてみると、学校・勉強に関するカテゴリに属する記事にアクセスが多いわけではなかった。このことから、当団体のブログを閲覧している人の興味・関心は、当団体スタッフが力を入れて情報配信している学齢期の内容についてそれほど関心が高くないものと考えられる。ただ、数が少ないからといって、ニーズが全くないわけではなく、地域に点在する視覚障害児が困ったときに役立つ情報があるかもしれないため、引き続き、学校・勉強分野に関する情報配信も行っていきたいと考える。

次に、最も記事数が少なかった就労については、当団体のスタッフの半数が学生であることが大きく影響しているものと考えられる。加えて、就労上の工夫やノウハウはウェブ上での情報開示に制限があるため、情報提供しにくいものと考えられる。とはいえ、成人した視覚障害者にとっては、就労はとても大きな課題であり、就労上の工夫や視覚障害を起因とする困難への対処法は誰もが関心のあるところであると考えられるため、今後、情報配信の課題としていき

たい。

### (2) アクセス解析に関する考察

ブログ解説から約2年間で約3万件のアクセスがある当団体のブログのどのような記事がよく閲覧されているのかを分析できたことは有意義であった。特に、当団体主催のセミナー視覚技藝等以外の記事について、ある一定の傾向を見出すことができた。それは、写真入りで解説されている記事へのアクセスが多いという点であろう。アクセス解析では、アクセスされた数しかデータとして出力されないため、推論の域を脱しないが、視覚的手掛かりのある記事へのアクセスが多いということは、閲覧者のほとんどが晴眼者である可能性が高いと考えられる。もちろん、作成されている記事の内容が弱視者向けのものであるため、弱視者も含まれているだろうが、それが全てではないのではないかと考える。ここから得た示唆をもとに、より視覚的手掛かりを多用した情報配信を行う必要性、及び、晴眼者を意識した情報配信が必要だろう。

また、USTREAMは、当団体がセミナー視覚技藝を開催する上で重視していることの一つである。セミナーは、参加することができれば参加者にとって有意義な経験になるのであるが、視覚障がい児・者や視覚障がい関連の仕事に従事されている方は、必ずしも関東近郊にいるわけではない。当団体のセミナーにも、新幹線や飛行機を利用して参加される方がいるが、当団体ではインターネットを活用して、より簡単に情報を得ることができるようになるようにしたいと考え、USTREAMを活用している。USTREAMは、当日の様子が生中継で配信されるため、会場に来ることができない遠方の方であっても、セミナーの様子を見ることができ、さらに、チャット機能やツイッター等からメッセージを送信することができる。つまり、リアルタイムに質問や感想のやりとりが可能である。さらに、その日、その時間にセミナーをみるができなかった人のために、録画した動画をブログから閲覧することができる。今回、アクセス解析で多くアクセスされていたUSTREAMの動画は、2012年3月に実

施した「私のキャンパスライフ～大学4年間を振り返って～」というテーマで実施した卒業を間近に控えた大学4年生の視覚障がい者のキャンパスライフに関する動画であった。これは、近年、理療科等の専攻科ではなく大学へ進学する視覚障がい者が全国的に増加しているため、実際に進学した視覚障がい者の体験談を知りたいというニーズのあらわれであると考えられる。今後も、USTREAM を活用した情報発信事業を継続し、日本全国どこでも情報が得られるような環境整備を行っていく必要があるだろう。

## 文献

- 1) 視覚障がい者ライフサポート機構  
“viwa” Staff blog [www.viwa.jp](http://www.viwa.jp)
- 2) 奈良里紗 (2011) 中途弱視高校生の相談経験から生まれた私の夢. 障害学研究, 7,331-334.
- 3) 奈良里紗・相羽大輔 (2012) 視覚特別支援学校における教育相談の現状と課題. 障害学研究, 8,176-181.